



やまぎわFCメモリア ルブックその1

大阪府豊能町にできた一つの草サッカーチームの物語



1

やまぎわFCメモリアルブック

大阪府豊能郡豊能町を活動拠点として今も存続するサッカー・フットサルチーム。そしてサッカー・フットサルの枠を越えて活動域を広げつつあります。

2012年からおよそ10年前に前身「みのじ連合」として産声をあげ、数々の苦難を乗り越えながら、これから再度全盛期の活力を取り戻すために、試行錯誤を重ねているチームがここに 있습니다。



【活動拠点】

大阪府豊能郡豊能町にあるしらかば公園グランド

特別な指命を背負ってボールを蹴る。

チーム名に企業等の名をつけない、また決してサッカー王国でもない豊能という「町」から立ち上がったやまぎわFCは、国内のどのスポーツの、どのチームにも似てはいない。例えるなら、それは“鬼子”のようなものである。

やまぎわFCマネージャーの一人は言う。

当時をを振り返り、「Bチームの溜まり場（やまぎわFCを指す）がチーム発足だけでなく運営維持できる確率は限りなくゼロに近く、99・9999%ダメだと思う。」

だが、雄々しく猛る強靱な“角”を持ったその鬼子は、切実な願いと燃えるような期待のなかから、温かな夢を内包して生まれてきた。

やまぎわFCがなぜ愛すべき鬼子としてこの世に生を受けることになったのか。彼らの活躍とともに、チームの生い立ちを振り返ってみよう。

ミノジ連合として放課後サッカーの集まりができ、2002年、高校卒業を控えて拠点を大阪府の豊能町に移転する。さらに拡大と発展をねらうには、いろいろな苦勞が伴った。

当時、草サッカーチームの発足が周りに見え始めるようになってきた。

学生クラブ選手をはじめ地域でも実力の高い選手と契約を交わして 草 としての意識づけを行い、レベルを高め、戦力の強化を達成してきた。

しかし、ミノジ連合は徹底したアマチュアイズムを貫いており、また地域にはほかに多くのスポーツ団を抱えていたので、自分達だけを特例としてノンアマチュア化（草化）することはできなかった。

[強くないチーム→ザコ→チーム名が知られない→いい選手が集まらない→強くなれない]

そんな悪循環は打破しなければならなかった。

組織として公共チームとしてなりたくてもなれないのならば、アマチュアのままで強くなるしかなかった。

やまぎわFCの若手を中心とした数人のスカウトマンが優秀な選手を求めて全国を歩く。しかし当初、レギュラークラスの選手やクラブに行く選手には、なかなか入団してもらえない。努力が結実するまでに、1年もかかってしまう。

2003年、やまぎわFCが誕生して公式ユニフォームを作成し、初の練習試合。



今のままでは、豊能のサッカーはだめになってしまう。

サッカーが好きな子供たちの将来を守り、サッカー界全体のレベルを上げて、なんとか豊能町を日本全国へ送り込みたい。

そんな願いを込めてやまぎわFCは「活性化委員会」をスタートさせる。委員会では、起死回生の現状打開策として「〇〇草リーグ」と呼ばれた草サッカーリーグを検討し始めていた。ただ、当時は草サッカーチームが近隣には全く無く、リーグ創設などは夢のまた夢。

この年「21世紀ビジョン」なるものを計画していた。

つまり、「こんなチームになろう」といった理想像である。地域住民に喜んでもらえるチームになろうとか、メンバーとその家族・地域全体に喜んでもらえる存在になろうといった展望が綿密に描かれていた。

地域と一体になったクラブづくり...自治体も含めて地域と密着した形でチームづくりを行い、草チームとして育ててゆく...

地域に住むみんなの力で、なんとか楽しい町、潤いのある町にしようというのが、「地域の活性化」。そこには、この地域に暮らす人々の願いが込められている・・・。

ただ、今のままではただの幻想でしかない。

現実的に、できることから物事を進めなければ・・・。

有志部隊で出来る事から始めていく。

ホームページの作成、ユニフォームの製作、ジャージの試作、練習試合の実施提案。

そして努力が実り、やまぎわFCは活況を得た。

豊能町においてサッカーに関係する方のほとんどに、おそらく「やまぎわFC」の名を知らない者はいなかったかもしれない。



初の公式ユニフォームを着ての舞台

豊能町新光風台祭りにチームとして出店。



旗の下に集まった学生たちの、熱い日々が始まる。

「〇〇がオフアーを蹴ったから、残りは7人・・・」

「やまぎわFCのサッカーチームはサッカーチームとして力量不足」

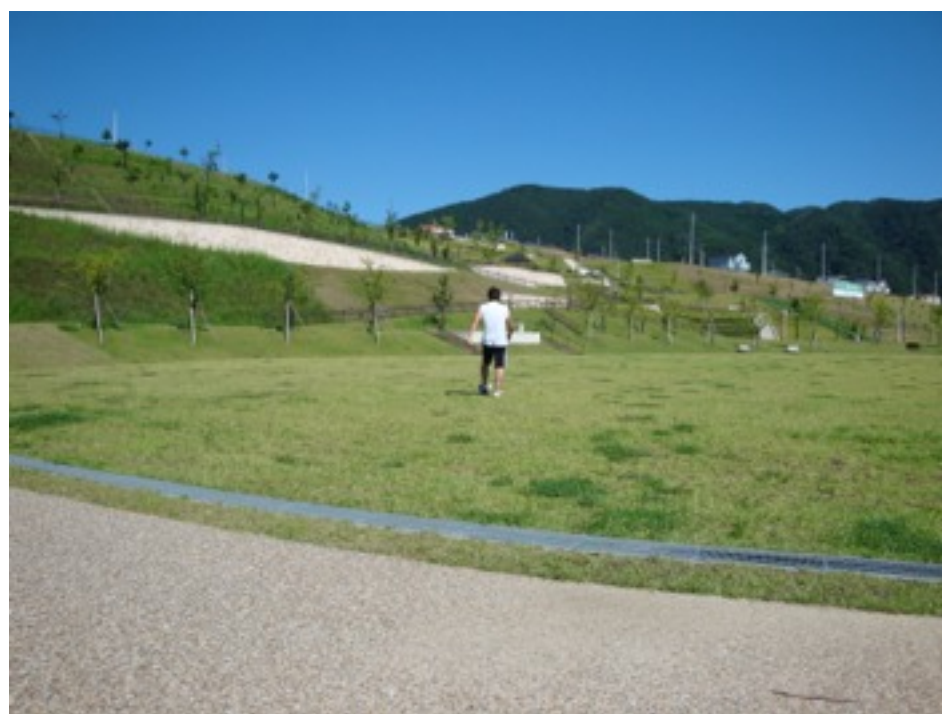
「やまぎわFCは草リーグに入れるほど人が集まらない」

毎日のように、さまざまな情報が飛び交う。

それでも、あきらめる者はひとりもいなかった。どうにかしなければいけない、何としてでも初年度、好調さを維持しながらスタートしなければならない。

誰もがそう考えていた。

ここまでくると、地域との協力関係ができ始めており、この段階に波に乗らなかつたらチーム全体の気運が薄らいでしまう。



殺人的ともいえるスケジュールを、一つ一つこなしていった。

夢を追う者たちの情熱と根気の日々。

「最終的には汗の積み上げが、チームを活性化してゆくのだと思う」

現実はそう甘くは無かった。



主要メンバーが大学卒業を迎え、活動が徐々に細っていった。

ホームページの更新は停止し、チームの存在は忘れ去られたかと思われた。

ただ、2012年、5年の時を経て再びチーム復活の兆しが見え始める。

主要メンバーの誰もが、決してチームの事を忘れたわけではなかった。

次号へ続く

やまぎわFC公式ページ：http://www.geocities.jp/yamagiwa_fc/